

北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会
東京支部会報 第22号
2008年9月27日

今年も同窓会総会で会いましょう!!

多治見北高等学校同窓会・東京支部 会長 前原 金一（2回生）

多治見北高等学校同窓会東京支部の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

本年は、母校創立50周年の記念すべき年であります。母校においても式典が開催される予定です。東京同窓会については、昨年と同様、副会長、理事、年度幹事の皆様と会合を重ねて、総会の準備を進めて参りました。

(1) 今年度の総会について

昨年と同様、昭和女子大学の本部館3階の会議室において、総会及び懇親会を11月15日（土）に開催することになりました。お誘い合わせの上、多数のご出席をお待ち致します。母校からは来賓として、小池校長先生他恩師の先生方、本部同窓会より尾関会長等をお迎えする予定です。

幹事年度9、19、29、39回生の皆様にはご苦勞をおかけしておりますが、よろしくお願い致します。

(2) 懇親ゴルフ会開催

今年度2回目の懇親ゴルフ会を5月11日（日）大宮カントリークラブみどりコースにおいて開催しました。大変和やかな一日となりました。

(3) 岐阜県人会の動向について

昨年の県人会総会は11月14日（水）都市センターホテルにおいて開催され、200人を超える会員が県の銘酒、名産品をいただきながら、和やかに歓談致しました。今年も11月19日（水）18時より、都市センターホテルで開催されますので、是非ご出席ください。特に県人会青年部の活動は大変活発で、毎月興味深いテーマ、講師による勉強会が続いています。（県人会の案内を同封致しました）

もう一つの動きは、昨年から始まった「在京岐阜サミット」が4月16日に開催されたことです。このサミットの趣旨は、在京岐阜県立高校の同窓会長達が集って、親睦と交友の輪を広げ、それぞれの会の活性化と発展に資すること、東京岐阜県人会の活動と相互に協力・協働してその成果を上げ、併せて郷土の発展に寄与すること、とされています。毎年2回開催され、知事、副知事も出席されます。



半世紀から一世紀へ

多治見北高等学校同窓会会長 尾関 恵一（2回生）



東京支部の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年にはわが多治見北高等学校創立50周年の年であります。半世紀が過ぎて一世紀へ向けての第一歩を踏み出す記念すべき年であります。

今年の11月2日（日）には記念式典が行われます。同

窓会としては全面的に協力するために各種の活動を行っています。

式典の中での記念講演には、芥川賞作家の堀江敏幸さん（22回生）をお願いしています。素晴らしい講演が聴けるものと今から楽しみにしています。この式典には、同窓会の本部役員をはじめ歴代校長、歴代PTA会長など本校と関わりの深い皆様を招待しておりますが、一般会員の席も出来る限り用意させていただきますので、多数の会員の皆様のご出席をお願いします。その日の午後には懇親会（合同同窓会）を行います。各学年20名程を

お願いしていますのでよろしくお願いします。

50周年記念事業は3000万円の範囲で事業を行うことにして、新しい「正門」と生徒達が集うことのできる「北辰の杜」は、既に完成致しました。植栽した樹木が大きくなれば、数年後には素晴らしい雰囲気のある校庭になるものかと思えます。是非、郷土に帰られた折には校庭をのぞいて見てください。

このような不況の中で、目標としていた5000万円には達しなかった訳ですが、3000万円もの大金を集めていただき、立派な記念事業を行うことができました。これも

同窓会の皆様のご理解とご協力のお陰であると厚く感謝を申し上げます。

この50周年記念事業を契機として各学年の同窓会の活動が活発になってきました。大変に喜ばしいことであると感謝しています。同窓会にとってもこの50周年記念事業が「半世紀から一世紀」への第一歩になることを期待しています。今後ともに会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

末筆になりましたが、東京支部が益々ご発展されることをお祈り申し上げます。

11月2日

創立50周年記念式典および合同同窓会開催

わが母校岐阜県立多治見北高等学校は、昭和33年(1958)4月1日に創立されて以来地域の中心校として数多くのすぐれた人材を世に送りつつ、平成20年(2008)3月31日をもって満50年に達しました。同窓会では、記念事業として「新しい正門をつくること」と正門から西門までの間を整備して「北辰の杜」をつくることになりました。当初あわせて計画していたクラブハウスについてはいろいろな事情で今回は見送ることになりました。その事業のために昨年11月からみなさまに寄付をお願いしたところ、多くの方々から協力をいただき寄付金も9月初め現在、3,000万円を少し超えたところまで集めることができました。ご協力ありがとうございました。工事も順調に進み、現在ほぼできあがりつつあるところで。(次頁に写真を掲載)

そして、来る11月2日には記念式典と合同同窓会を開催します。(右欄に式次第を掲載)

「記念式典」では本校の卒業生で芥川賞受賞作家である堀江敏幸氏の記念講演も行われます。

堀江敏幸氏略歴

1995年『郊外へ』で小説家デビュー。

1999年、『おばらばん』で第12回三島由紀夫賞受賞。

2001年、「熊の敷石」で第124回芥川賞受賞。その後も各種の文学賞を受賞。現在、小林秀雄賞選考委員。

21世紀に入ってから大学入試現代文常連著者の一人でもあり、2007年には「送り火」が大学入試センター試験国語本試験に出題される。2007年度入試での利用度NO.1作家。



創立50周年記念式典

時間：9:30～13:00(記念講演を含む)

会場：多治見北高等学校体育館

<物故者慰霊・50年の歩み>

- 1 開式の辞
 - 2 国歌斉唱
 - 3 式辞(同窓会長)
 - 4 学校長挨拶
 - 5 教育委員会挨拶
 - 6 感謝状贈呈
 - 7 来賓挨拶
 - 8 祝電披露
 - 9 記念事業披露及び目録贈呈
 - 10 生徒代表挨拶
 - 11 校歌斉唱
 - 12 閉式の辞
- 記念講演 堀江 敏幸氏(22回生)

合同同窓会

時間：14:00～15:30

会場：多治見市産業文化センター5階

- 1 開式の辞
- 2 同窓会長挨拶
- 3 来賓挨拶
- 4 乾杯
- 5 歓談(軽食)
- 6 記念撮影・近況報告(各学年)
- 7 校歌斉唱
- 8 閉式の辞

会費 3,000円



シンボルツリー（ヒトツバタゴ）「北辰の杜」の中心的存在



正門（9月5日撮影）



北辰の路。新正門（昔の「東門」のあったところ）から西門が「北辰の路」でつながる。
左は正門側から、右は西門側から見たもの。



学校へのご支援に感謝

校長 小池 邦夫

多治見北高校同窓会東京支部の会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

昨年の夏は全国的に暑い夏で、とりわけ多治見は暑く高温の日本記録を更新しました。今年はといえば、多治見では記録の再度の更新は無かったものの猛暑日が続き、計34日、最高39.0℃と大変な暑さでした。8月20日頃から一転涼しくなったかと思うと長雨が続く、一宮市や岡崎市では大きな被害が出ました。長雨や洪水といえば首都圏でも局地的に記録破りの豪雨があって排水機能が追いつかず、あちこちで被害が出ていることは東濃でも大きく報道されています。

さて、北高の様子ですが、大きくは変わっていません。インターハイ出場の常連で20年近く連続出場していたボクシング部の記録が途切れたことは残念ですが、生徒の運動好き、部活動好きは相変わらずで、放課後も6時までには校地のあちこちで生徒の声が響いています。

近頃は真似をする学校が増え、本校の専売特許というわけにはいきませんが、65分授業も昔のままですし、大学受験の結果も卒業クラス数が1減であったにも関わら

ず例年とほぼ同じ合格数をだしており、県下で三番目という位置は維持されています。平成20年度の結果で特筆すべきことは一橋大学の合格が4名であったことでしょうか。

本校が東濃西部の大半の中学生にとって憧れの学校であることも昔のままです。しかし少数ですが、愛知県の私学を目指したり、特待生などで地元の私学への進学を早々と決めてしまう中学生がいるということは本校にとっては残念な事実です。本校のブランド力をなお一層強めねばなりません。創立50周年記念事業は大きなチャンスであると思います。中味の充実が何より重要であることは承知していますが、この事業を推進し、名門校に相応しい佇まいを整え、学校の魅力を高めようとしていただけていることについても同窓会の皆様に改めてお礼を申し上げます。



「人が元気 まちが元気 多治見」をメインテーマに

多治見市長 古川 雅典（11回生）

世界の経済の中心、日本の政治の中心である東京にお住まいの多治見北高等学校卒業生の皆様、多治見市長の古川雅典です。

多治見市では、まちの元気を取り戻すため、今年の4月から、「人が元気 まちが元気 多治見」をメインテーマとした第6次総合計画をスタートいたしました。

第一には、まちづくりの基本は人であるとの観点から、多治見市の教育を再構築するため、本年度を「教育充実元年」と位置付け、岐阜県NO.1の教育環境を目指すことです。具体的には、全ての中学校での30人程度学級の実施、立命館大学の陰山教授にご指導を受けながら進める脳トレーニングの実施、「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底など、家庭と協力した生活習慣、学習習慣の向上の取り組みです。これらは、国や県の支援を待っているのではなく、市単独の予算を付けてでも実施するものです。加えて、小学校に入学するまでに、きちんと学力と体力を付けられる教育にも取り組みたいと考えています。

第二には、これまでなかなか手がけられなかった企業誘致の積極的な実施です。昨年、市長に就任して早々に企業誘致課を新設し、精力的に調査した結果、粘土を採掘した鉱山跡地をうまく利用すれば、貴重な緑を切ることなく工場用地を造成できることが判りました。もちろん、新規産業の誘致実現のため、市長自らによるトップ

セールスも積極的に行っています。

第三には、日帰り観光の強化です。多治見市には、人口11万規模の都市でありながら50年以上の歴史ある建物などが幾つもあり、これは全国にもあまり例のないことです。特に名古屋方面からの誘客力アップを目指し、これまでの永保寺や修道院に加えて、明治天皇の行在所である西浦庭園、老舗料亭川地家の再生などに取り組み、まちの中心を流れる土岐川の美化緑化とともに、厚いおもてなしができる物語を作っています。

2年後には多治見市制70周年を迎えます。多治見市が井の中の蛙にならないよう、関東や関西にいらっしゃる皆様から、いろいろな情報や人脈などを多治見市に送っていただけるよう「多治見市を元気にするアドバイザー制度」の準備を進めています。「人が元気、まちが元気な多治見」をつくるために、多治見市長として、そして多治見北高等学校の11回生として、皆様からお力添えいただけることを心よりお願い申し上げます。（平成20年8月25日）



同窓会だより

19回生のみなさん！ 総会でお会いしましょう！

柳澤 敦子（19回生）

ある日、久しぶりにサラリーマンの人ごみに押されながら再開の進む東京駅近くの中野店に向いました。店内は少し暗めで（よかったーしわは目立たないよ）密かに安堵しました。今日は20年ぶりに北高19回生の人達に会うことになっていました。一昨年に多治見では卒業して初めての同窓会が卒業生約360人中200人の出席者で盛大に行われました。残念ながら参加できなかった私は今回の再会をとて楽しみにしながら、今回幹事となる東京支部総会も負けないくらい充実した内容にできたらと思っていました。そして今日うれしいことに何度か総会に参加していた今井大三さんを通じて準備のため7名程集まってくれることになったのです。

始めは高校時代の思い出話で盛り上がりました。高校

時代ほとんど話をしたことがなかった人ともこんなに話が弾むものなのかと同窓会の不思議な力に驚きました。近況を語り合ううち総会のテーマは最近話題の年金問題（講師は可児俊信さん）と環境問題（講師は山田三杉さん）に決まりました。参加者のハートを惹きつけること間違いなしでしょう。

2回目は自然食ビュッフェ式のレストランで開かれメタボリック対策には十分でした!? 今回は合併の話から懇親会の際東濃の歴史をクイズ形式で取り入れることにしました。若尾政希さん監修のもと後藤稚佳子さん手作りの賞品等楽しい内容になりそうです。

3回目は夏の暑い日、加藤茂博さん紹介の高層ビル展望バーで夜景に包まれての話し合いでした。今度はぜひ

同窓会だより

打合せ以外で利用したいものです。私達の世代はまだまだ仕事や子育てにも大変な時です。お忙しいと思いますが同窓会を癒しの場の一つに加えてもらえればと思っています。そのためには何度も出席したいと感じられる環境をつくる必要があります。同世代の出席者を増やす、

案内状や会費の見直しなど色々な案がでて終わりました。伊佐地則文さん、河合拓弘さん、当日は進行等よろしくお祈いします。今後もまだまだ多くの皆さんのご意見を聞かせていただきたいと思います。11月15日にお会いしましょう！

アラフィフ再会！～または同窓会の効用

鈴木 一夫（17回生）

夢見るアラサー煩惱のアラフォーを過ぎて、今や我等“Around 50”即ち成熟の「アラフィフ」。そんな北高17回生たちが8月16日の午後2時、多治見市内「美・マリアーヂュ」で再会した。地元幹事団の熱心な勧誘が実り、会場は総勢80名を超す盛況。東京支部帰省組の顔も多い。伊藤信子先生（英語）、遠藤勝先生（国語）、大石秀次先生（理科）、林修先生（数学）から楽しいゲストスピー

弾発言に耳を傾けるも一興。アラフォーは知らず、アラフィフでは時効も成立。昔話と笑って流すシブミの余裕。かくて、夏の夜はゆったりと心地よく更けていった。

結論：「また寄って、まっと話そまい！」そう、貴重な共有メモリーが初期化せぬ前に。

特別付録「プレイバック～昭和51年」です。まずはロッキード事件。内閣はよく替わり、田中 三木 そして



チを拝聴後、乾杯。気分は遙か32年を遡り1976年（昭和51年）、高3の夏休みにリセットされる。木造校舎の蒸れた空気が蘇るが、建物の構造や配置等、映像的記憶はやや微妙。3年8組、何階のどの辺？

最近、少年の日々のリアリティー実感が急速に風化したことに慄く。あの時、何を読み、思い、悩み、誰と語った？当時の自分には当たり前だったことが、ちゃんと再現できぬもどかしさ。

何年かに一度は集まって語らい、メモリーの修復を試みる。意外な証人が現れるかも…。うん、同窓会にはそんな効用もありそうだ。校歌斉唱、終宴後も話尽きず、場を移して二次会。「実は私あの頃、X君のこと…」的爆

当時も福田首相（父）で、景気は第一次オイルショック危機後のスタグフレーション。犬神家の金田一耕助は、昔も今も石坂浩二。テレビ番組ならば「巨泉のクイズダービー」。聴こえる歌は、キャンディーズ「春一番」とピンクレディー「SOS」。ユーミンは荒井 松任谷になり、サザンはまだでタモリが出現。中国で毛沢東が逝去。モントリオール五輪はコマネチ！と塚原（父）月面宙返りで決まり。日本シリーズの覇者は阪急で、横綱は北の湖。思えば遠く来たもんだ。（来てないかも？）



『蝶はしたたか はてさて人は』

中嶋 正人 (1回生)

定年後、私は「蝶の写真を撮る」という道楽につかりつつ、できるだけ多くの方が昆虫を通じて、より自然に接していただけるよう、ボランティアの活動しております。その道楽が高じて2冊目の本を出版してしまいました。

蝶という生きものを観察していると、1億年も行き続けている虫のしたたかさを思い知らされ、反面、人の脆弱性を痛感することになりました。

この本は蝶の世界をなるべくやさしくご紹介するとともに、現代人の不自然さに目を向けていただく、という趣向の本です。蝶はともかく私たちの今を見つめなおしてみたいはいかが？



書名：『蝶はしたたか はてさて人は』

出版社：文芸社 著者：中嶋正人 価格：1980円（税込み）

宇宙観光学って！

水野 紀男 (2回生・日本観光学会理事)

平成18年11月に『宇宙観光旅行時代の到来』と題した本（四六版212頁、文芸社）を出版した。米国を中心に民間の宇宙船開発競争が軌道に乗り、弾道宇宙旅行の開始が間近に迫りつつある状況の中で、日本の大手の旅行会社はその募集を行った。宇宙への関心は高く、約2000万円もする旅行の予約が相次いだ。こうした市場動向を見て、人類の宇宙への憧れから、今日までの宇宙開発の経緯や解決すべき諸課題を整理しながら、宇宙を目的地とする観光旅行の可能性の分析を試みた。

読者の視点からすれば、アポロやスペースシャトルなどの宇宙飛行士たちの宇宙体験が誌上で再現されるところが興味を惹いたのではと思う。また、読者が宇宙船の搭乗客になった場合、無重力やその環境における諸々の現象を仮想現実で捉える効果も少しはあったのではないか。

しかし、筆者としては宇宙観光旅行の本格的実施に至るまでのプロセスに多くの技術的・法制度的課題が山積していることを指摘するとともに、地上においては他分野と比較して学術的研究成果が問われる観光学を、宇宙空間における関連分野の研究に取り組むことによりその位置づけを強化する良い機会と考えている。

観光学は比較的新しい学問領域であり、従来から経済

学、経営学、社会学、心理学、地理学など社会・人文・自然科学の3分野にまたがる先行研究に委ねる部分が大きかった。今や、観光立国の推進が国策として脚光を浴びている。観光そのものが産業としての基盤を整備し、基幹産業として確立するためには観光学の自律性・先進性を追求していくことが重要である。ここに、来るべき宇宙観光旅行時代を先取りして、宇宙空間を対象領域とする関連分野の研究のチャンスが到来したのである。

宇宙観光事業論、宇宙ホテル事業論、宇宙交通事業論、宇宙旅行心理学、宇宙法学、宇宙医学、宇宙気象学などといった研究の積み上げにより体系化した宇宙観光学って！ 夢なのかな？

書名：『宇宙観光旅行時代の到来』

出版社：文芸社 著者：水野紀男



同窓生だより

10月初旬に日本橋・丸善で、鎌倉在住の彫刻家・岩田実氏の個展が開催されます。

詩とイメージと形 と題した彫刻展で詳細は下記の通りです。ご都合のつく方は是非足をお運びください。

場所：東京都中央区日本橋2-3-10

丸善・日本橋店3Fギャラリー

TEL.03-6214-2001

日時：2008年10月2日(木)～10月8日(水)

午前9：30～午後8：30

最終日は午後5時閉場

三美神



同窓会だより

第18回総会・懇親会のご報告

多治見北高校同窓会東京支部の総会・懇親会が、昨年11月17日午後3時から東京・三軒茶屋の昭和女子大学で開催されました。今回で第18回を数える総会・フォーラム・懇親会は8回生、18回生の年度幹事が中心となって準備・運営にあたりました。地元から同窓会本部の尾関恵一会長、母校の小池邦夫校長、恩師の安藤富雄先生、松田嘉久先生らの来賓を迎え、約100人の参加者が旧交を温めました。

総会では第17期の事業報告・決算報告・会計監査報告、第18期事業計画・予算案が承認されました。さらに新たに役員として副会長に柳澤敦子さんが選出され次期総会・懇親会にむけての態勢の強化が確認されました。

恒例のフォーラムでは、萱原昇氏(8回生・トーテックアメニティ(株)取締役常務執行役員)が「社会が変わる、ICTが変わる」と題して講演。続いて、「ジェネリック医薬品を考える」と題して、原正志氏(8回生・第一三共(株)学術調査部)が講演されました。

大会議室に移動しての懇親会は、前原金一東京支部会長の開会の辞に続いて、小池校長、尾関本部同窓会長、古川雅典多治見市長ら来賓が挨拶。乾杯のあと、各々なごやかな歓談へと移りました。予定の2時間はあっという間に過ぎ、シンボルの「キューピー」を受け渡しての幹事団引継セレモニー、全員での校歌斉唱の後、小栗英夫東京支部副会長の閉会の辞でお開きとなりました。



東京支部懇親ゴルフ会開催

「第5回東京支部懇親ゴルフ会」が5月11日(日)、大宮カントリークラブ(埼玉県)において開催されました。雨の多かった5月でしたが当日は朝のうちは小雨模様でしたが、幸運にすぐに雨もあがり、12回生1名、13回生3名、17回生3名、で会長を囲んでのほのぼのとして心地よくゴルフのできた一日でした。次回は11月29日(土)、中津川カントリークラブ(神奈川県)で開催予定。

年2回程度の開催を予定しておりますので、是非、皆様の参加をお待ちしております。



参加者(敬称略)：後列左から 鈴木清二(13回生)、安藤嘉朗(17回生)、水野輝彦(13回生)、正村栄邦(17回生)、安藤敏弘(17回生)、前列左から、愛知正人(13回生)、前原金一(2回生)、原田英明(12回生)

第19回東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は支部運営にご協力いただき御礼申し上げます。

熱戦が展開された北京オリンピックでは日本人選手の活躍もあり、またレベルの高い競技を見ることができ、4年に1回のオリンピックならではの醍醐味を感じることができました。一方、8月下旬は天候不順で各地に思わぬ局地的集中豪雨が襲い、被害も出ているところがあるようですが、皆様にはお変わりないことと推察申し上げます。

さて、本年も東京支部懇親会を下記の通り開催する運びとなりました。ご多用中のこととは存じますが同期の方々とお誘い合わせのうえ、是非ご出席くださるようご案内申し上げます。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会（9、19、29、39回生）

記

日時：平成20年11月15日（土曜日） 午後3時～7時45分（2時30分開場）

会場：昭和女子大学 本部館3階 電話 03(3411)5244（内線1301）（当日のみ）

総会・フォーラム：中会議室 懇親会：大会議室 なお、会場までの道筋は、案内図をご覧ください。

<プログラム>

- ・受付開始：午後2：30
- ・総会：午後3：00～3：30（於：中会議室） 議長選出、活動報告、会計報告、事業計画、役員改選、その他
- ・フォーラム：午後3：30～4：30（於：中会議室）
演題：「どうなる年金？どうする老後！」
講師：可児俊信（19回生） 千葉商科大学会計大学院 会計ファイナンス研究科教授
(株)ベネフィット・ワン ヒューマン・キャピタル研究所所長 税理士(米国) CFP

老後を支える年金は、保険料の引き上げ、年金記録の不備、年金給付の引き下げなど不安要素だらけである。その現状を冷静に分析するとともに、その対抗策を提案する。

演題：「森林に求められる多様なニーズの高まりと環境」「中国山西省黄土高原における環境保全林造成を例にして」

講師：山田三杉（19回生） 王子木材緑化株式会社 営業本部 林業部 担当課長

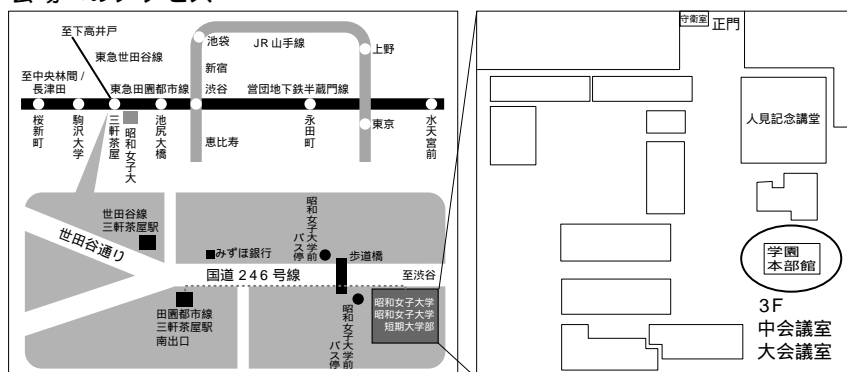
・中国山西省黄土高原におけるODAの実態・森林による地球温暖化防止への貢献
私自身の中国山西省黄土高原における1年間のODA活動と併せて、森林の持つ優れた機能の紹介とそれらが環境に対してどのような効果を発揮するのか？ についてお話しします。

- ・懇親会：午後5：00～7：30（於：大会議室）
- ・懇親会費：一般6,000円
学生1,000円
（新卒生は無料）

- ・年会費：一般2,000円
学生 0円

当日、会場での展示品を募集します。ご希望の方は実行委員会まで事前にご連絡下さい。
gizumoa@nifty.com（柳澤）

会場へのアクセス



訃報

伊藤郁雄先生（英語科担当）が8月30日、すい臓がんのため死去されました。謹んでご冥福をお祈りします。享年77歳。葬儀は9月1日にとりおこなわれました。自宅は恵那市東野1843の1。

編集委員 小栗英夫（2回生） 原田英明（12回生）

<ホームページアドレス><http://www.tajimikita-tyo.com/> <メールアドレス>info_hokushin@tajimikita-tyo.com